

高原地域における超促成イチゴのライナー発生促進技術

農業研究センター 高原農業研究所

研究のねらい

高原地域の気象条件を活かし、促成イチゴ“とよのか”の早期収穫・収量増加及び収穫期の拡大を図り、生産安定技術を確立するために、10月下旬収穫開始をめざしたライナー発生促進技術について、被覆資材の種類・被覆時期・換気温度・被覆方法及びジベレリンの処理時期の効果を検討した。

研究の成果

1. 被覆資材の種類は、ビニールなど保温性の高い資材がランナー発生促進効果に優れる。
2. 被覆時期は、2月上旬から被覆を行えば、高原地域においても3月中旬からランナーが発生し、安定的に採苗を行うことが可能である。
3. ビニールトンネルなどを用いた場合の喚起温度は、30℃が35℃よりランナー発生促進効果がやや優れる。
4. 被覆方法は、耐風性や作業（換気）性を考慮すると、トンネル被覆よりも通気性資材（短繊維不織布など）を用いたベタガケが優れるが、ランナー発生促進効果がやや劣る。
5. ジベレリン（100ppm）の処理時期は3月下旬～4月中旬でよい。
6. 受けポットのライナー切り離し時期を6月上旬とすると、おや株1株当たり15株の苗が確保できるので、本ぼ10アール当たりの親株必要数は約500株である。
7. 以上の技術を組み合わせれば、10月下旬収穫開始のための採苗が可能である。

表1 ランナー発生の推移

(平成4年度)

試験区	GA処理	発生開始	3 / 19	4 / 10	4 / 30	5 / 15
			本・%	本・%	本	本
ビニール	4/2	3/12	1.3-100	4.9-100	9.7	14.4
	4/16	3/12	1.2-85	5.0-100	10.1	14.2
ビニール+ヘタガケ	4/2	3/12	1.6-100	5.2-100	10.9	16.2
	4/16	3/12	1.5-100	6.0-100	11.5	16.7
サンリッチ7600	4/2	3/14	0.6-45	3.9-100	7.9	12.5
	4/16	3/14	0.5-45	3.4-100	7.4	11.9
サンリッチ7700	4/2	3/14	0.7-56	4.0-100	8.3	13.5
	4/16	3/12	0.7-56	4.2-100	9.1	13.8

注) 3/19と4/10の%表示は、ランナー発生が確認された株の割合

表2 小苗数の推移

(平成5年度)

試験区		子苗数(2葉以上)		
被覆資材	GA処理日	4月12日	5月6日	6月21日
ビニールトンネル	3/25	-	4.2±1.6	45.1±7.9
	4/9	-	3.9±1.3	41.2±6.9
サンリッチ	3/25	-	3.5±0.9	35.5±9.2
	4/9	-	2.5±0.9	29.3±6.6